

令和3年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 江田島市公共交通協議会（江田島市地域公共交通計画策定事業）の概要



江田島市の概要

- 平成16年11月に4町が合併
- 人口 21,930人（令和2年国勢調査）
- 面積 100.72平方キロメートル

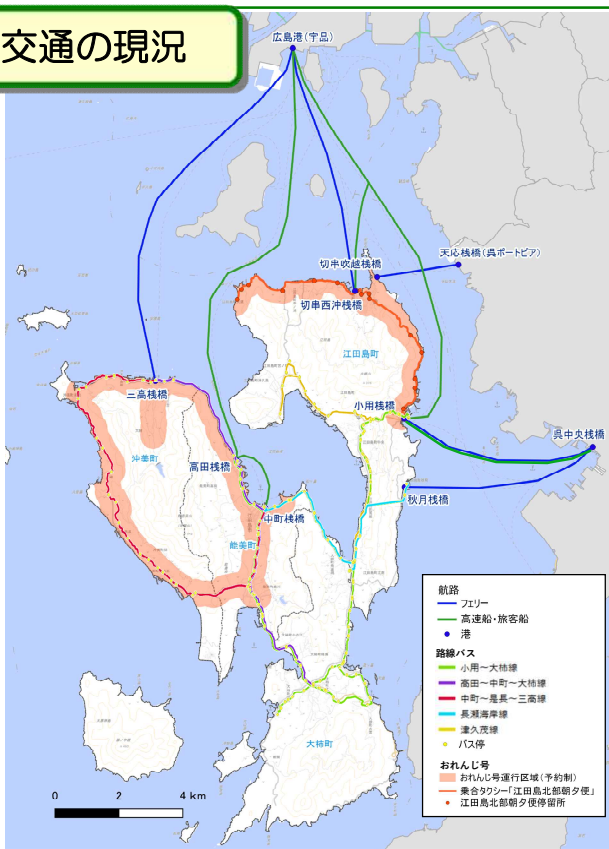
協議会の構成員

広島県、江田島市、学識経験者、広島県旅客船協会、江田島バス(株)、広島県タクシー協会江能支部、利用者又は住民代表者、中国運輸局、広島運輸支局、江田島警察署

地域公共交通の現状

- ・路線バス：江田島バス(株)
- ・航路：7航路（民間4社と市）
- ・おれんじ号（予約型乗合タクシー）：3系統
- ・江田島北部朝夕便（乗合タクシー）：1系統
- ・タクシー会社：民間7社
- ・高齢化率43.6%（令和2年国勢調査）

地域公共交通の現況



具体的な課題・問題点

- ・人口減少やコロナ禍に伴う利用者の減少。
- ・生活交通維持確保に係る行政負担の増加。
- ・収入減による交通事業者の経営悪化。
- ・市民と危機意識の共有が十分に図れていない。
- ・移動ニーズを踏まえた公共交通網となっていない。
- ・分かりやすい案内ができておらず、観光客も十分に取組み込めていない。



調査事業の実施

調査事業の概要

- ・現況調査（人口・高齢化・地形・交通利用者・輸送モード・既存計画の振り返り）
- ・ヒアリング調査（交通事業者・医療機関・商業施設・市民）
- ・バス利用者アンケート
- ・上記を踏まえた上でニーズ・課題の整理
- ・具体的な計画方針の検討

協議会における検討

- 協議会の開催状況 3回開催
- 第1回（5月14日）
策定スケジュールの進め方の確認
- 第3回（10月20日）
現状調査の結果について
- 第4回（12月27日）
途中経過の報告及び事業評価について

地域住民の意見の反映

- 2地区（小用・深江）の45名の市民を対象に、交通に対するヒアリング調査を行った。
- 11月に路線バスの利用者（57名）に対し、交通に対するアンケート調査を行った。

事業実施の適切性

- 地域公共交通調査事業が計画どおり適切に実施されている。

調査事業の結果の概要

- 現況調査などにより、地域の公共交通の状況を整理した。
- 交通事業者や市民等へのヒアリングにより、交通事業者の経営状況や航路とバスの接続改善など市民の移動ニーズを把握することができた。
- 持続可能な公共交通サービスを実現するため、次期計画期間中の事業案を検討し、協議会に諮るための計画（たたき台）を作成。
- 今後の協議会の検討を経て、江田島市地域公共交通計画として最終的にとりまとめる。



地域公共交通計画等の計画策定 に向けた方針等

【①便利で持続可能な地域公共交通網の形成】

- 生活航路や路線バス及びおれんじ号等に対する補助を行いつつ、航路網の将来イメージに関する事業者との協議や移動ニーズを踏まえたバス路線網の見直しを行うことにより、持続可能な地域公共交通網の形成を図る。

【②わかりやすく魅力的なサービス提供と利用促進】

- わかりやすい情報提供と利用促進を行いながら、新たな需要の掘り起こしを行う。

【③地域公共交通を守り、育てる意識の醸成】

- モビリティ・マネジメントを行いながら、市民とともに守り育てる地域公共交通を目指す。

協議会における検討

- 協議会の開催状況 3回開催
- 第1回（6月18日～30日）※書面開催
アンケート調査内容について
- 第2回（10月25日）
地域公共交通計画（骨子案）について
- 第3回（1月21日～2月2日）※書面審議
地域公共交通計画（素案）について

地域住民の意見の反映

- 協議会への公共交通の利用者代表の参画
- 令和3年7月～8月にWEBアンケートを実施し、市民3,253名の回答を集計。
- 令和3年7月～9月に市内立地企業に対しWEBアンケートを実施し、147企業の回答を集計。

事業実施の適切性

- 事業が計画どおり適切に実施された。
- 地域公共交通計画策定に必要な調査ができた。

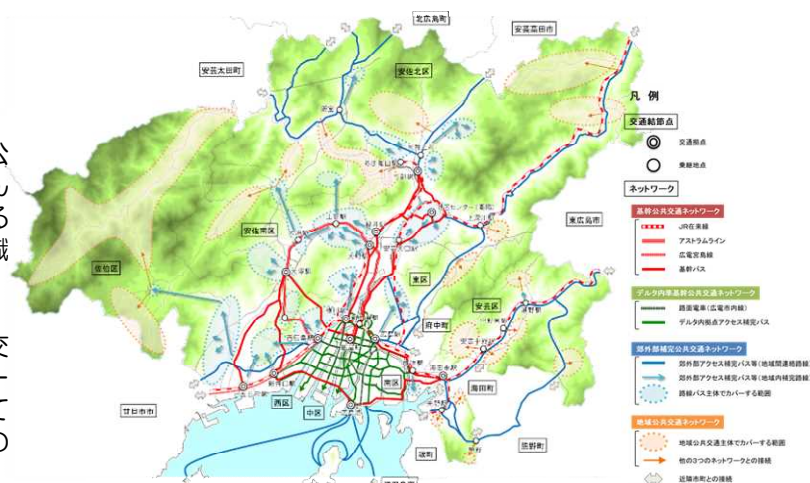
調査事業の結果の概要

- 市民や市内企業へのアンケート調査により、新型コロナウイルスが与えた影響や終息後の公共交通の利用意向などを把握した。
- 地域公共交通計画に位置付ける機能強化策の整理や評価指標の検討を行い、計画素案を作成した。
- 今後、法定協議会の議論を経て、地域公共交通計画として取りまとめる。

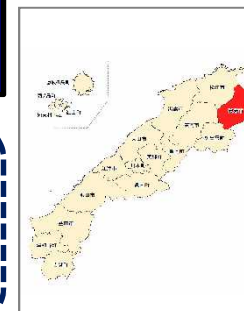


地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針等

- これまで、公共交通を軸とした集約型都市構造の実現に向けて、基幹公共交通などからなる階層性のある公共交通ネットワークの形成に取り組んできたところであり、今後は、輸送需要の減少などの公共交通が直面する危機的な状況を乗り越えるため、新たな課題への対応についても強く意識し、効率的で持続可能性の高い公共交通ネットワークの形成を進める。
- 各ネットワークの役割に応じたサービスの提供や、円滑な乗継のための交通結節機能の強化を図るとともに、ソフト面においても利用者の移動ニーズに応えられるサービスを提供し、高齢者や外国から来訪者を含むすべての「利用者にとってわかりやすく使いやすい持続可能な公共交通体系」の構築を目指す。



令和3年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 安来市地域公共交通活性化協議会(計画策定事業)の概要



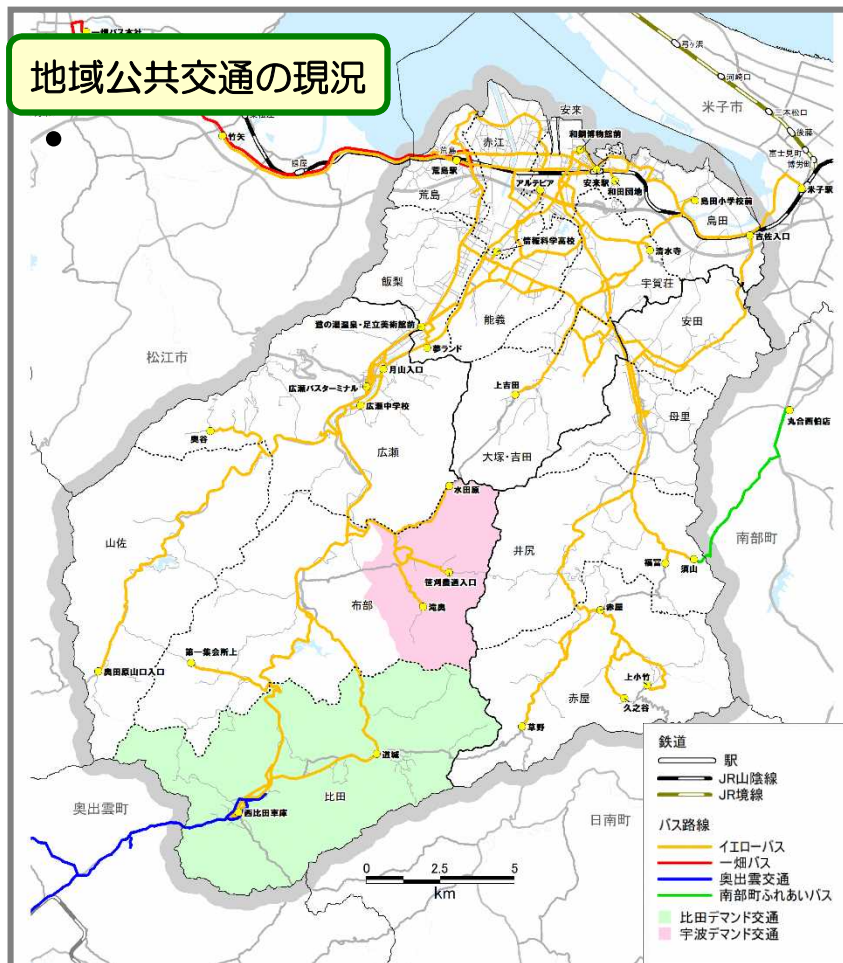
安来市の概要

- ・平成16年10月に安来市・広瀬町・伯太町の1市2町が合併
- ・人口 37,158人(令和3年11月現在)
- ・面積 421平方キロメートル

安来市地域公共交通活性化協議会の構成員

安来市 一畑バス(株) 日本交通 島根県 中国運輸局
学識経験者 旅客自動車協会 利用者代表

地域公共交通の現況



地域公共交通の現状

- ・鉄道：JR山陽本線
- ・4条バス路線：一畑バス 1路線
- ・イエローバス(安来市広域生活バス) 18路線 タクシー5事業者
- ・自家用有償旅客運送 2地区(宇波地区、比田地区)
- ・他市町の路線バスの乗り入れ：奥出雲交通、南部町営ふれあいバス

具体的な課題・問題点

- ・少子高齢化や山間部の過疎化への対応
- ・イエローバス(安来市広域生活バス)の利用者減少
- ・市内公共交通網の維持・確保
- ・バス利用促進
- ・公共交通の利用環境の改善・整備
- ・タクシー事業者の維持



調査事業の実施

調査事業の概要

- ・地域の現況整理
- ・公共交通利用実態調査
- ・地域住民のニーズ把握調査
- ・関係者ヒアリング調査
- ・問題点・課題等の整理
- ・基本方針等の検討
- ・事業等の検討
- ・安来市地域公共交通計画取りまとめ
- ・協議会の運営

協議会における検討

- 協議会の開催状況
・第1回（12月17日）
・第2回（1月予定）
・第3回（3月予定）
- 3回予定
公共交通の課題と公共交通計画の策定方針、事業評価について
計画素案について
計画案について

地域住民の意見の反映

- ・本年度9月に市内3,000世帯を対象にアンケート調査を実施し、1,280人の回答を集計（回収率42.7%）。

事業実施の適切性

- ・事業が計画どおり適切に実施された。
- ・地域公共交通計画策定に必要な調査ができた。



調査事業の結果の概要

- ・調査事業（現状分析やアンケート等の各種調査）によって次の課題を抽出した

【課題1】人口減少の進行と事業費の高止まりに対する対策

【課題2】非効率な運行をしている路線の見直し

【課題3】住民のニーズに合わせた公共交通網の整備

【課題4】公共交通を利用しにくい環境にある集落への対応

【課題5】タクシーや住民主体の移動手段を含めた交通ネットワークの構築

【課題7】公共交通を住民全体で維持していく意識醸成

【課題6】わかりやすい公共交通の情報発信

【課題8】観光や福祉、教育等の他分野との連携強化

地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針等

【安来市地域公共交通計画の基本理念（案）】

人々の生活と安心を支え、未来につなぐ公共交通

計画の基本目標(案)

地域生活の安心を提供する公共交通ネットワークの構築

計画の基本目標(案)

生活を支える公共交通の維持・確保

計画の基本目標(案)

人々のつながりと活力のキッカケとなる公共交通とその環境の育成



各基本目標に対応した施策（事業）については、協議会での検討をもとに設定

【現時点で考えられる施策】市内バス路線の見直し、効率的な運用、利便性の向上、地域のニーズへの対応、利用促進策等

令和3年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 倉敷市地域公共交通会議（地域公共交通調査事業）の概要



倉敷市の概要

- 平成17年8月に1市2町が合併
- 人口 474,592人（令和2年度国勢調査）
- 面積 355.63km²

交通会議の構成員

公募市民、高齢者団体の代表、障害者団体の代表、商工業団体の代表、観光団体の代表、学識経験者、岡山県バス協会、岡山県タクシー協会、岡山県交通運輸産業労働組合協議会、両備ホールディングス(株)、岡山電気軌道(株)、下津井電鉄(株)、(株)井笠バスカンパニー、琴参バス(株)、西日本旅客鉄道(株)、水島臨海鉄道(株)、井原鉄道(株)、中国地方整備局、中国運輸局岡山運輸支局、岡山県警本部、岡山県、倉敷市

地域公共交通の現況



地域公共交通の現状

- ・鉄道：3事業者 5路線
- ・航路：1事業者 1航路
- ・4条バス路線：4事業者 45系統
- ・乗合タクシー：53事業者
- ・高齢化率26.5%

具体的な課題・問題点

- ・幹線・支線の明確化による地域間・地域内の連携強化
- ・広域ネットワークとの連携強化
- ・交通渋滞に対応した交通サービスの構築
- ・地域との連携によるコミュニティタクシー運行地区の拡大と利便性の向上
- ・倉敷駅周辺や地域・地区間の回遊を促進する交通サービスの構築
- ・観光客の二次交通としての公共交通の活用 など

調査事業の実施

調査事業の概要

- ・公共交通の現状把握（ICカードデータ、バスロケーションデータの分析）
- ・上位計画・関連計画の整理
- ・問題点・課題の整理
- ・基本方針の検討（基本方針、基本目標、施策の方向性及び目標値）
- ・事業の検討
- ・倉敷市地域公共交通計画（素案）の取りまとめ
- ・地域公共交通会議

協議会における検討

- 協議会の開催状況 2回開催
- ・第1回（5月13日）コロナにより中止
 - ・第2回（10月22日）計画策定スケジュール等
 - ・第3回（11月22日）計画策定期限の変更について等
- ・書面審議（R4年1月28日）事業評価について

地域住民の意見の反映

- ・本年度1月より市内3,000世帯を対象にアンケート調査を現在実施中（回収率30%を想定）。

事業実施の適切性

- 事業が計画に位置付けられたとおりに実施されていない点があった。
- ・コロナ禍の影響により、新計画の策定にあたり、「交通事業者の状況」、「公共交通に関する市民の意向」など、公共交通の現状について、多方面から綿密に把握するため、令和3年度は、現状把握、問題点・課題等の整理、現状と課題の取りまとめを行う計画に変更した。

調査事業の結果の概要

- ・倉敷市地域公共交通網形成計画における事業の総括として、個別事業の実施状況を把握した。
- ・公共交通に関する利用実態等を把握するとともに、今後、施策を検討する際の基礎資料とすることを目的とした市民アンケートを現在実施中。
- ・今後は、アンケート結果等をもとに、問題点・課題等の整理、現状と課題の取りまとめを行う予定。



地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針等

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、公共交通利用者が減少し、交通事業者における、輸送収入、資金繰りが厳しい状況等を踏まえて、問題点・課題等を整理する。
- ・後期高齢者等、交通弱者の状況を踏まえて、問題点・課題等を整理する。
- ・市民アンケート結果より、現在、公共交通を利用している方へは、現在の公共交通に対する満足度や今後の継続利用意向、必要だと思う改善内容等を把握し、今後も継続的に利用していただくためにクリアすべき課題を明らかにする。
- ・現在、公共交通を利用していない方へは、「なぜ利用しないのか（できないのか）」、「どうすれば利用していただけるか」等を把握し、今後、新たに公共交通を利用していただくために、どのような取り組みが必要かを明らかにする。
- ・これらの検討結果より、今後、問題点・課題等の整理、現状と課題の取りまとめを行う。
- ・令和4年度は、今年度の検討結果を踏まえて、基本方針、事業等の検討を行う。
- ・令和4年度の11月上旬に素案を作成し、12月中旬からパブリックコメントを実施し、令和5年3月に計画策定する予定。
- ・玉島地域のバス路線の一部について、運行事業者から運行継続が困難との申し出を受け、「地域旅客運送サービス継続事業」を計画に位置づけることについて検討中。

令和3年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 宇部市公共交通協議会（計画策定事業）の概要



宇部市の概要

- 平成16年11月に1市1町が合併
- 人口 169,429人（平成27年国勢調査）
- 面積 286.65km²

宇部市公共交通協議会の構成員

学識経験者、バス事業者、タクシー協会、鉄道事業者、山口運輸支局、道路管理者、宇部警察署、交通労働組合、山口県、利用者代表、自治会推薦者、宇部市

地域公共交通の現状

- ・鉄道：JR宇部線、JR小野田線、JR山陽本線
- ・路線バス：宇部市交通局、船木鉄道株式会社、サンデン交通株式会社
- ・乗合タクシー：法人タクシー10事業者、個人タクシー5者
- ・地域内交通：コミュニティタクシー6地域、デマンドバス3地域

具体的な課題

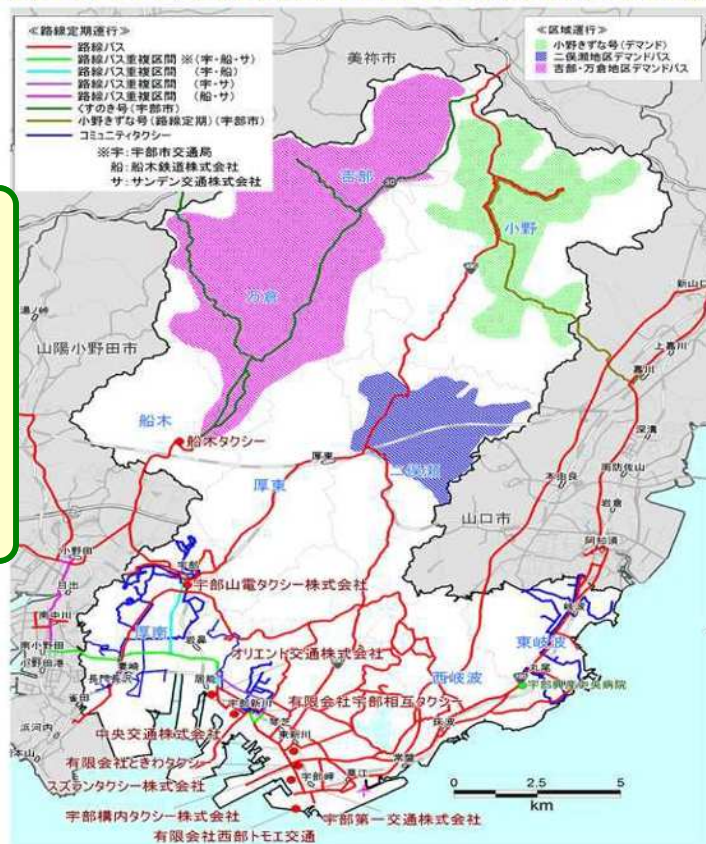
- ・人口減少、高齢化への対応
- ・適正な財政負担
- ・利用者目線に立ったわかりやすい情報提供
- ・住民との協働
- ・関係主体の連携

調査事業の実施

調査事業の概要

- ・公共交通に係る現状整理（人口、高齢化、利用状況、前計画の評価検証、関連計画）
- ・ヒアリング調査（交通事業者、関係部署）
- ・公共交通計画の作成（地域間幹線、フィーダー系統）

地域公共交通の現況



協議会における検討

- 協議会の開催状況 5回開催
- ・第1回（8月23日）評価、現状、課題
 - ・第2回（10月8日）施策
 - ・第3回（11月16日）全体
 - ・第4回（1月5日）素案
 - ・第5回（2月予定）最終確認

地域住民の意見の反映

- ・総合計画に係る市民意識調査
- ・パブリックコメント

事業実施の適切性

- ・事業が計画どおり適切に実施された。
- ・地域公共交通計画策定に必要な調査ができた。

調査事業の結果の概要

- ・基礎的データの整理、現況調査、ヒアリングなどにより、地域の公共交通の現状を整理した。
- ・公共交通協議会に諮るための資料を作成した。
- ・公共交通協議会の協議等を経て、課題、基本方針、目標、施策を整理した。
- ・宇部市地域公共交通計画（素案）を作成後、パブリックコメント、公共交通協議会での協議等を経て、宇部市地域公共交通計画として最終的にとりまとめる。



地域公共交通計画等の計画策定 に向けた方針等

- ・公共交通利用者数の確保のため、新技術や新たなサービスも活用して、利便性の向上と利用促進の充実を図るとともに、公共交通により地域の価値向上を目指す。
- ・高齢者等の移動手段の確保のため、地域内交通を充実させる。
- ・安心・安全な運送サービスの提供のため、交通事業者の事業体制の健全化と運転士等の人員の確保に努める。

令和3年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 光市地域公共交通協議会（計画策定事業）の概要



光市の概要

- ・平成16年10月に1市1町が合併
- ・人口 49,798人（令和2年10月現在）
- ・面積 92.13km²

協議会の構成員

市民・利用者の代表者、交通事業者、山口運輸支局、道路管理者（国・県・市）、警察、労組代表者、学識経験者、地方自治体（県・市）

地域公共交通の現況



地域公共交通の現状

- ・鉄道：JR山陽本線
- ・航路：牛島室積航路
- ・4条バス路線：防長バス、中国JRバス、ひかりぐるりんバス…25系統
- ・自家用有償旅客運送…5系統
- ・高齢化率 36.2%

具体的な課題・問題点

- ・運転手不足等に伴うバス運行便数の減少
- ・自宅から最寄りバス停までの移動等の高齢化に伴うニーズへの細やかな対応
- ・生活交通支援としての地域互助によるボランティアドライバーの確保
- ・離島航路に係る島民の高齢化と減少に伴う利用者の減少
- ・生活交通維持確保に係る行政負担の適正化
- ・鉄道とバスの接続性向上



調査事業の実施

調査事業の概要

光市地域公共交通計画策定に係る移動実態及びニーズの把握

- ・アンケート調査
 - 市内全域を対象とした市民向けアンケート調査（2,000世帯）
 - 高校事務局を対象とした通学実態アンケート調査（近隣20校）
- ・乗合バスに関する乗降調査
- ・関係機関へのヒアリング調査（交通事業者、関係市町）

協議会における検討

- 協議会の開催状況 5回開催（移動実態及びニーズ調査関係）
- ・第1回（5月18日） 調査方法について
 - ・第3回（10月26日） 調査結果の報告、課題整理について
 - ・第4回（11月18日） 課題を踏まえた施策など中間案について
 - ・第5回（12月24日） 事業評価について
 - ・第6回（2月前半予定） 最終案について

地域住民の意見の反映

- ・本年8月20日から9月3日にかけて市内2,000世帯を対象にアンケート調査を実施し、1,001件の回答を集計した。（回収率50.1%）
- ・本年9月6日から9月16日にかけて近隣20校の高校事務局へアンケートを実施し、全校の回答を集計した。

事業実施の適切性

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、ヒアリング調査や乗車調査は一部控えることとしたが、事業は適切に実施され、地域公共交通計画策定に必要な移動実態及びニーズの把握ができた。

調査事業の結果の概要

【アンケート調査関係】

- ・市民、近隣高校事務局へのアンケート調査により、移動の実態や公共交通サービスへのニーズを把握した。

【乗合バスに関する乗降調査】

- ・民間バス事業者及び光市営バスの利用実態について把握した。

【ヒアリング調査】

- ・交通事業者へのヒアリングにより、現状の認識と将来的な見込について把握した。
- ・広域バス路線の関係市町へのヒアリングにより、現状路線への維持継続に係る意向を把握した。



地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針等

実施した調査事業から課題を整理し、光市地域公共交通計画のポイントとなる基本方針において将来像と目標を次のとおり設定しており、令和4年2月の最終案協議を経て、令和4年3月の策定を見込んでいる。

- ・将来像 「人、地域、暮らしをつなぎ、ゆたかな社会へつながる公共交通」
市民が住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、SDGsの目指す「誰一人取り残さない」という理念等を取り入れながら、まちづくりと連携した公共交通網の形成を図るとともに、生活様式の変化への対応や脱炭素化による持続可能な社会の実現に寄与するなど、より多様な視点から将来にわたって安定的・持続的に機能できるよう備え、市民や地域、交通事業者、行政といった全ての主体とともに利便性の高い持続可能な「公共交通ネットワーク」の構築を目指す。
- ・目標
 - 目標1 まちづくりと連携した公共交通網の形成
 - 目標2 便利で快適な利用環境の整備
 - 目標3 市民と共に守り支える公共交通の推進

※公共交通ネットワークのイメージ

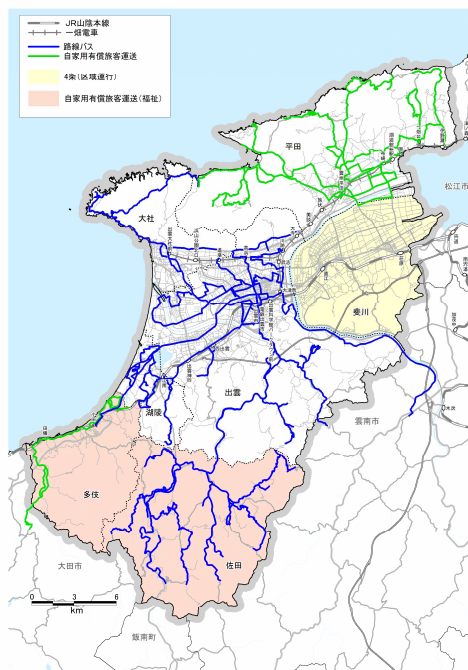


令和3年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 出雲市地域公共交通活性化協議会(計画策定事業)の概要



出雲市の概要

- 平成17年3月に2市4町が合併
平成23年10月に1町を編入合併
- 人口 17万人(令和2年10月現在)
- 面積 624.36平方キロメートル



出雲市地域公共交通活性化協議会の構成員

- 地域代表者 ●島根県旅客自動車協会 ●西日本旅客鉄道株式会社米子支社
- 一畑電車株式会社 ●島根県交通運輸産業労働組合協議会 ●出雲観光協会
- 出雲市議会 ●中国運輸局 ●島根県 ●出雲市

地域公共交通の現状

- 鉄道：JR山陰本線、一畑電車 ●4条バス路線：一畑バス ●4条委託バス路線：大寺線、根波線、外園線、平成温泉線、三刀屋出雲線、うさぎ線、佐田生活福祉バス、福祉バス
- 4条(区域運行)：まめながタクシー
- 自家用有償旅客運送：平田生活バス(平田地域)、多伎循環バス(多伎地域)
- 自家用有償旅客運送(福祉)：高齢者等外出支援サービス事業(佐田地域、多伎地域)

具体的な課題・問題点

- 高齢化に対応した運行形態
- 市内交通の再編成
- 交通空白地対策
- 各地域での利用状況と運行状況の不整合
- 車両の適正化



調査事業の実施

調査事業の概要

- 現況調査 ●乗降調査(データの無い平田生活バスのみ実施)
- ヒアリング調査：交通事業者・出雲市関係課 ●市民アンケート

●協議会における検討

協議会の開催状況 2回開催済み

- ・第1回（8月23日）
設立総会 スケジュールの確認
- ・第2回（12月24日）
調査結果報告《中間報告》
- ・第3回（3月下旬開催予定）

地域住民の意見の反映

- ・協議会委員に地域住民代表を選出
- ・1～2月ごろ市民アンケートを実施予定

事業実施の適切性

事業が計画どおり適切に実施された。

調査事業の結果の概要

- ・基礎データを収取し、地域の公共交通の状況を整理した。
- ・乗降調査を行い、利用状況を把握した。
- ・交通事業者へヒアリングを行い、交通事業者の状況、利用者の実態を把握した。
- ・出雲市の関係課へヒアリングを行い、移送の制度及び現状を把握した。
- ・1月～2月に市民アンケートを実施し、市民のニーズを調査する。



地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針等

- ・令和3年度においては調査を実施し、課題の抽出を行う。
- ・令和4年度において交通計画の策定を行う。

令和3年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 三江線沿線地域公共交通活性化協議会（計画策定事業）の概要



三江線沿線の概要

- 沿線市町 江津市、川本町、美郷町、邑南町、安芸高田市、三次市
- 人口 10万5千人（令和2年10月現在）
- 面積 2,394平方キロメートル

三江線沿線地域活性化協議会の構成員

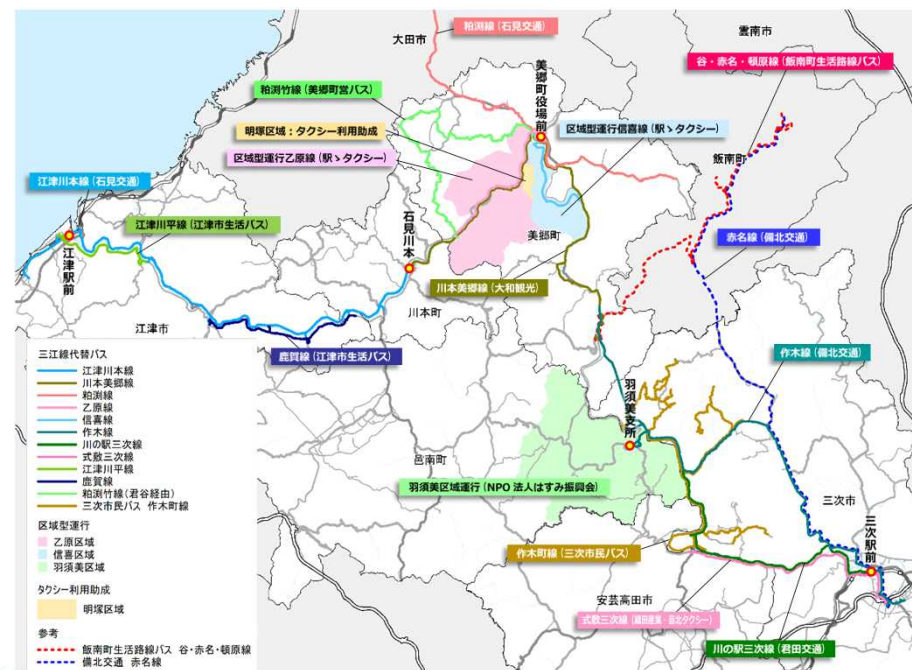
公共交通事業者、道路管理者、公安委員会、地域公共交通利用者、関係地方公共団体、中国運輸局ほか

具体的な課題・問題点

- ・ 利便性の向上
- ・ 通学手段の継続的な確保
- ・ 路線の競合回避・統合、連携と役割分担
- ・ 過疎化、高齢化への対応
- ・ 観光利用への対応

調査事業の実施

地域公共交通の現況



調査事業の概要

- ・ 代替交通沿線住民アンケート調査
- ・ ヒアリング調査（学校・自治体観光部局）

協議会における検討

- 協議会の開催状況 2回開催
- ・第1回（6月30日）
事業実施について
 - ・第2回（12月24日）
事業評価について

地域住民の意見の反映

- ・本年度11月に沿線住民世帯を対象にアンケート調査を実施し、約1,400人の回答を集計（回収率24%）。

事業実施の適切性

- 事業が計画どおり適切に実施された。
 - ・地域公共交通計画を推し進めるに必要な調査ができた。
- （現在、事業実施途中）

調査事業の結果の概要

- ・三江線代替交通を利用していない方も含めた、沿線住民の代替交通に関するアンケート調査や高校通学実態調査、観光部局へのヒアリング調査を実施し、代替交通の問題点や課題の抽出をおこなった。
- ・今後、アンケート調査・ヒアリング調査の結果を取りまとめ、三江線沿線地域公共交通計画の推進に活かしていく。



地域公共交通計画等の計画策定 に向けた方針等

- ・調査結果を活かし、利便性の向上や利用者負担の軽減、利用促進をはかりながら、通勤・通学・通院・買い物等の移動手段として、代替交通を継続的に確保していく。
- ・美郷町では乗合区域運行（定額制乗合タクシー）の実証運行が開始され、邑南町羽須美地区では、代替交通の観光利用客をターゲットとした区域型運行の検討をおこなったり等の動きがあり、引き続き、地域の実情に合った代替交通の利便性の向上や観光利用への対応に努めていく。